2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	病態治療学Ⅶ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担当教員	樋口　巧	実務経験とその関連資格	看護師・保健師:看護国家試験対策　講師			

《授業科目における学習内容》

看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。
病態治療学Ⅶでは生体防御機能障害の病態と検査、治療について学習する。

《成績評価の方法と基準》

終講試験

《使用教材(教科書)及び参考図書》

病態生理学(医学書院)
疾患と看護④血液／アレルギー・膠原病／感染症　(メディカ出版)

《授業外における学習方法》

シラバスを確認しながら予習復習を行うこと。

《履修に当たっての留意点》

病態をイメージしながら理解してください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	アレルギー疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	生体防御機能障害　アレルギー疾患の病態、検査と治療		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	膠原病の病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	生体防御機能障害　膠原病の病態、検査と治療		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	生体防御機能障害　感染症の病態、検査と治療		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	貧血の病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	血液・造血器機能障害　貧血		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	白血病、悪性リンパ腫の病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	血液・造血器機能障害　白血病、悪性リンパ腫		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	血友病・紫斑病の病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	血液・造血器機能障害　血友病、紫斑病		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	DICの病態と検査・治療について説明できる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	血液・造血器機能障害　DIC		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体防御機能障害の病態と検査、治療をまとめることができる	テキスト、プリント	事前にテキストを読んでくる。友達同士で問題を出し合いながら学習する。
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	精神看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担当教員	井上　玲子	実務経験とその関連資格	看護師として精神科病棟勤務			

《授業科目における学習内容》

精神医療と看護の歴史的変遷、精神障害者の処遇、現代の社会病理を概観し、心の健康を理解するために心の構造と機能、成長と発達、その課題と危機、心の健康に及ぼす諸因子、精神看護に関する諸モデルについて学習する。また、心の看護と特性、治療的関わりと働きかけなど心を病んだ人々の理解と援助を探求する精神看護学の基礎的理解と概念について学習する。

《成績評価の方法と基準》

レポート 20%、終講試験80%にて総合評価する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

1. 使用教材:新体系　看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論　精神保健　　メヂカルフレンド社
2. 参考図書:平澤久一監修、精神看護の非言語的コミュニケーションUP術、メディカ出版、2010　平澤久一監修、表情看護のすすめ、メディカ出版、2014　平澤久一監修、ユーモア看護ー癒やしと和みー、金芳堂、2020

《授業外における学習方法》

テキストのみならず、他の専門誌や日刊紙等から情報を得て、興味本位で書かれた書誌に惑わされず、精神障害者の置かれている社会的状況と一般人間の理解に努めること。

《履修に当たっての留意点》

授業中の私語、携帯電話・スマホの操作、他領域の課題の持ち込みと作業は厳禁とする。また、教科書を事前学習し、精神疾患と症状、状態像とそれらの看護について理解できるよう準備しておくこと。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護とは、正常と異常、心の健康と不健康、社会病理について考え述べることができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	序章 Ⅲ地域精神保健 Ⅲ精神看護の分野
		各コマにおける授業予定	序章　Ⅰ精神保健で扱われる現象、Ⅱ精神的健康の保持・増進としての精神保健		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	(地域精神保健と精神看護分野について述べることができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第1章 精神(心)のとらえ方
		各コマにおける授業予定	序章　Ⅲ地域精神保健、Ⅳ精神看護の分野		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳の構造と認知機能について述べることができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第1章 Ⅱ精神(心)の構造と働き
		各コマにおける授業予定	第1章 Ⅰ脳の構造と認知機能		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神(心)の構造と働きについて述べることができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第2章Ⅰエリクソンの漸成的発達理論、フロイトの性心理発達理論
		各コマにおける授業予定	第1章 Ⅱ精神(心)の構造と働き		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神(心)の発達理論について述べることができる。	精神看護学概論 精神保健(メヂカルフレンド社)	第2章Ⅱボウルビィの愛着理論、Ⅲ乳幼児の発達理論
		各コマにおける授業予定	第2章　フロイトの性心理発達理論、Ⅰエリクソンの漸成的発達理論、Ⅱボウルビィの愛着理論 ⅢA マーラーの分離個体化理論、Ⅳマズローの欲求5段階説		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	家族と精神（心）の健康について述べることができる。	精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社）	**第3章 A 家族とは、B夫婦関係**
		各コマにおける授業予定	第3章 A家族、B夫婦関係、C親子関係、D家族ライフサイクル、E家族システム		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	暮らしの場と精神（心）の健康について述べることができる。	精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社）	第4章 暮らしの場と精神（心）の健康
		各コマにおける授業予定	第4章Ⅰ学校と精神（心）の健康、Ⅱ職場・仕事と精神（心）の健康、Ⅲ地域における生活と精神（心）の健康		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神（心）の危機状況と精神保健について述べることができる。	精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社）	第5章精神（心）の危機状況と精神保健
		各コマにおける授業予定	第5章Ⅰ危機とは何か？危機理論・危機モデル、Ⅱストレスコーピング、Ⅲ適応と不適応、Ⅳセルフマネジメント		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会と精神（心）の健康について述べることができる。	精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社）	第6章 現代社会と精神（心）の健康ⅡA～D
		各コマにおける授業予定	第6章 Ⅰ現代社会の特徴：社会構造の変化と社会病理、Ⅱ精神保健が関与する社会病理現象A～D		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会と精神（心）の健康について述べることができる。	精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社）	第6章現代社会と精神（心）の健康ⅡE～G
		各コマにおける授業予定	第6章 Ⅱ精神保健が関与する社会病理現象E～G		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会と精神（心）の健康について述べることができる。	精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社）	第6章 現代社会と精神（心）の健康ⅡH～J
		各コマにおける授業予定	第6章Ⅱ精神保健が関与する社会病理現象H～J		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会と精神（心）の健康について述べることができる。	精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社）	第6章 現代社会と精神（心）の健康ⅡK～M
		各コマにおける授業予定	第6章 Ⅱ精神保健が関与する社会病理現象K～M		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神医療（看護）の歴史について述べることができる。	精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社）	第7章 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿Ⅰ精神医療・看護の歴史
		各コマにおける授業予定	第7章 精神医療(看護)の歴史A～B		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	Ⅱ精神障害者を守る法・制度、Ⅲ精神保健福祉法における医療形態と患者処遇につて述べることができる。	精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社）	第7章Ⅱ 精神障害をもつ人を守る法・制度、Ⅲ精神保健福祉法における医療形態と患者処遇
		各コマにおける授業予定	第7章 Ⅱ精神障害者を守る法・制度、Ⅲ精神保健福祉法における医療形態と患者処遇		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	**精神保健・精神看護について述べる事ができる**	精神看護学概論 精神保健（メヂカルフレンド社）	授業を振り返り、理解を深めておく。
		各コマにおける授業予定	**まとめ　終講試験**		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	国際看護Ⅱ		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担当教員	藤井　千江美	実務経験とその関連資格	看護師にて病棟勤務、海外経験あり			

《授業科目における学習内容》

1.他国の医療事情について文化との関連から考えることができる
2.他国の看護を調べ、日本の看護について考えることができる
3.他国と日本の看護について、その相違と他国の看護を考察できる
4.プレゼンテーションを通して、参加者と意見交換を行うことができる

《成績評価の方法と基準》

レポート・発表内容100%　60%以上で単位認定とする。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

国際化と看護(メディカ出版)　その他、各自のテーマに応じた文献を選択する。

《授業外における学習方法》

テーマに応じた内容を積極的に自己学習しまとめる。

《履修に当たっての留意点》

個人ワークが主ですので、問題意識を持って世界の国々を調べ、考察を加えること。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	関心のある国を選定できる。	テキスト 各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	他国の健康課題、ヘルスケアシステムについて		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	選択した国の現状を把握する。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	選択した国の文化、健康課題、ヘルスケアシステムについて 日本との相違		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	選択した国の健康課題を明確にできる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	選択した国の健康課題		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	選択した国の健康課題を明確にできる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	文献(AJN)抄読		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	選択した国の健康課題解決に向けた取り組みを調べられる。 日本との相違	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	選択した国のヘルスケアシステムについて		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	選択した国の健康課題解決に向けた取り組みを調べられる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	選択した国の健康課題、ヘルスケアシステムについて		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	選択した国のオリジナルな健康課題解決策を考察できる。	各自参考文献を持参	テーマに応じた調べ学習
		各コマにおける授業予定	選択した国の文化、健康課題、ヘルスケアシステムから		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	他者にわかりやすく自己のテーマと考察内容を発表でき、意見交換できる。	各自参考文献を持参	発表資料を作成
		各コマにおける授業予定	研修まとめ、発表（学びの共有）		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	情報科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	PCルーム
担当教員	BSC所属講師	実務経験とその関連資格	滋慶学園各専門学校にて、情報処理、情報科学の講師経験			

《授業科目における学習内容》

この授業では、学生がコンピュータの基本操作に習熟することはもちろん、Officeソフトの利用だけにとどまらず、現代社会において必須となるデータ分析やAI技術の基礎を学ぶことを重視します。データの活用方法を学び、実践を通じて在学中および卒業後の情報処理スキル向上を図ります。

《成績評価の方法と基準》

課題・小テスト点100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「コンピュータキャリアトレーニング」※イーラーニングコンテンツ
対面授業、オンライン(ライブ)、オンデマンドの3つの授業形態(ハイフレックス型授業)で、テキストや動画を見ながら学生が独学できるようデザインされた教材です。講義は基礎分野と応用分野に分類されています。

《授業外における学習方法》

自宅等にインターネットにつながったPCがあれば、イーラーニングで自習できます。
欠席した場合は次の週までに課題を済ませて下さい。

《履修に当たっての留意点》

出席することが一番重要ですので、欠席しないように受講してください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	文書作成の基本的な操作ができる	Wordダイジェスト	イーラーニングテキストで講義の内容を確認することができます。
		各コマにおける授業予定	文書作成の基本的な流れ/ページ設定/文字の書式設定/図形・画像などの挿入/表の作成/ページ罫線		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	スライド作成の基本的な操作ができる	PowerPointダイジェスト	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	プレゼンテーションの作成手順/テーマとバリエーション/スライド/プレースホルダー/画像の挿入/テキストボックス/図形作成/ワードアート/画面切り替え効果の設定/アニメーション効果/ノートの作成/スライドショー		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	企業や施設が求める表計算ソフトの基本操作ができる	Excel基礎1 基本操作	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	オートフィル/数式の作成/SUM関数/グラフ作成/印刷		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	関数を駆使した資料を作成できる	Excel基礎2 数式と関数基礎	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	割合を求める/相対参照と絶対参照/AVERAGE関数/COUNTIF関数/シートの操作		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	グラフを駆使した資料を作成できる	Excel基礎3 グラフ基礎	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	目的に応じたグラフ作成/グラフのレイアウト/行や列の挿入/グラフの編集		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を数値化できる （平均、分散、標準偏差）	初級データサイエンス(統計編)1	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	平均と分散の意味と求め方/標準偏差の意味と求め方		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる1 （基本統計量を求める、ヒストグラムの作成）	初級データサイエンス(統計編)2	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	分析ツールの使用/基本統計量の算出/度数分布表(ヒストグラム)の作成/標準偏差のグラフ図示		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	データの特徴を視覚化できる2 （散布図、相関係数を求める）	初級データサイエンス(統計編)3	イーラーニングテキストで講義の内容を確認しておくこと。
		各コマにおける授業予定	散布図を作成し、相関関係の有無を視覚的に表す/相関係数の算出		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	臨床検査治療論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担当教員	藤原　牧子	実務経験とその関連資格	臨床検査技師として勤務後、大学講師として勤務			

《授業科目における学習内容》

放射線について簡単に学習し、X線発生装置の基本構成、CR装置、X線TV装置、X線CT装置、核医学検査、放射線治療等について幅広く学習する。また、診療画像機器における、品質・安全管理について学ぶ。「麻酔科学」「周術期管理」「集中治療学」についての基礎知識習得、それらに関連する疾患や病態の理解、看護師の役割を理解する。各種検査項目の臨床的意義を理解するとともに検体採取、患者説明に関わる看護師としての役割について考える。

《成績評価の方法と基準》

終講試験

《使用教材(教科書)及び参考図書》

臨床放射線医学(医学書院)
臨床検査(医学書院)
臨床外科看護総論(医学書院)　検査値ガイドブック　第2版　(サイオ出版)

《授業外における学習方法》

授業終了時に示す課題を実施しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

配布したプリントを授業で使用するので、忘れず持参すること。授業中、自由に質疑やコメントを歓迎し、積極的な意見交換を行いたい。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床検査とその役割について理解できる。臨床検査の流れと看護師の役割について理解できる。	テキスト、配布資料	予習:臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	①診療における臨床検査の役割 ②検査の採取法や保存・移送法 ③検査に伴う危険とその防止		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿検査と検査項目の異常値を示す原因について理解できる。	テキスト、配布資料	予習:臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	尿検査とその目的、検査項目		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液学的検査の内容と検査結果の解釈、看護のポイントについて理解できる。	テキスト、配布資料	予習:臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	血球検査、出血と凝固時間、溶結性貧血の検査、骨髄検査		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	化学検査の意義と注意事項、看護のポイントについて理解できる。	テキスト、配布資料	予習:臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	血清蛋白質と酵素、糖・脂質代謝、胆汁排泄関連物質、窒素化合物、骨代謝、腎機能、水・電解質検査　血液ガス分析		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	免疫・血清学的検査の意義と、異常にはたらく原因を理解し、看護のポイントについて述べることができる。	テキスト、配布資料	予習:臨床検査(医学書院)の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	炎症マーカー、液性・細胞性免疫、自己抗体、アレルギー検査、腫瘍マーカー、輸血		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分疾患とホルモンの検査、検査介助のポイントについて理解できる。	テキスト、配布資料	予習：臨床検査（医学書院）の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	下垂体前葉・後葉ホルモン、甲状腺ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎皮質・髄質ホルモン		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	微生物学的検査と感染症の診断、検査補助時の注意点について理解できる。病理学的検査の意義と看護のポイントについて理解できる。	テキスト、配布資料	予習：臨床検査（医学書院）の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	感染症の診断と検査、各種感染症・病原体と検査、細胞診、病理組織検査		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体検査の意義と看護師の役割について理解することができる。	テキスト、配布資料	予習：臨床検査（医学書院）の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	生理機能検査、画像検査、内視鏡検査		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	放射能と放射線の違いについて理解し、説明できる。 画像診断とその看護について理解できる。	テキスト、配布資料	予習：臨床検査（医学書院）の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	放射能と放射線 X線診断、CT、MRI、超音波		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	核医学検査と放射線治療、その看護の役割について理解できる。	テキスト、配布資料	予習：臨床検査（医学書院）の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	核医学検査、放射線治療		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊椎麻酔について解剖学的観点やその影響含め、理解できる。	テキスト、配布資料	予習：臨床検査（医学書院）の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	痛みについて、神経障害性・侵害受容性疼痛、ブロック注射		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊椎クモ膜下麻酔の臨床症状と対応について理解できる。	テキスト、配布資料	予習：臨床放射線医学（医学書院）の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	鎮痛と鎮静、CO2カプノメーター、脊椎クモ膜下麻酔		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋弛緩の目的と呼吸補助、心停止の対応と観察について理解できる。	テキスト、配布資料	予習：臨床放射線医学（医学書院）の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	全身麻酔、筋弛緩薬のメカニズム、人工呼吸、心停止の考え方		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	カテコラミンの作用と使用時の注意点について理解できる。分娩時の痛みによる影響や無痛分娩のリスクと対応について理解できる。	テキスト、配布資料	予習：臨床放射線医学（医学書院）の授業範囲を読んでくる。授業で配るプリントをよく予習・復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	カテコラミン、産科麻酔・無痛分娩、敗血症の考え方		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床検査・治療において、これまで学んだことをまとめ、記述することができる。	テキスト、配布資料	予習：臨床放射線医学（医学書院）の授業範囲を読んでくる。よく復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	終講試験　まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	病態治療学Ⅷ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担当教員	仲谷佳高	実務経験とその関連資格	医師　病院勤務			

《授業科目における学習内容》

看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。
病態治療学Ⅷでは、精神機能障害の病態と検査、治療について学習する。

《成績評価の方法と基準》

終講試験

《使用教材(教科書)及び参考図書》

精神障害を持つ人の看護(メヂカルフレンド社)

《授業外における学習方法》

常に予習復習を心がけてください。文字だけでなく映像でイメージして理解しようと努力してください。

《履修に当たっての留意点》

各機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、病体治療学の前に復習しておくこと

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神機能障害の病態について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害　精神機能障害の病態のとらえ方		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神機能障害の検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害　精神機能障害の検査と治療		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神機能障害の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害　リエゾン精神医学		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	統合失調症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害　統合失調症		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	躁うつ病、神経症、心身症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害　躁うつ病、神経症、心身症		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	アルコール依存症、薬物依存症について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害　アルコール依存症、薬物依存症		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	精神機能障害 認知症		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神機能障害の病態と検査、治療をまとめることができる	テキスト	本日の学習テーマの予習 前回の復習
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	カウンセリング理論と技法		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担当教員	太田　早苗	実務経験とその関連資格	臨床心理士			

《授業科目における学習内容》

カウンセリングの基本を学習し、学生間でロールプレイをしながらカウンセリングの技法を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

終講試験(80%)　レポート(20%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

金子書房　カウンセリング演習

《授業外における学習方法》

授業中の演習を自宅で振り返り、気づきをまとめておく。

《履修に当たっての留意点》

学生間でのロールプレイなど積極的に参加してください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングの基本と技法を理解できる。	テキスト 配布プリント	テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	カウンセリングとは、カウンセリングの理論		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自己理解を深め自己洞察できる	テキスト 配布プリント	テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	自己洞察とは、自己洞察の意義、自己洞察の実施		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセラーの基本的態度を理解できる。	テキスト 配布プリント	テキストの該当箇所を読んでおく
		各コマにおける授業予定	カウンセラーの基本的態度		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じてかかわり技法を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	かかわり技法、応答技法、質問技法、		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じて行動支援法を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	行動支援法		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じて交流分析を習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	交流分析①		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	カウンセリングのワークを用いながら、演習を通じてアサーショントレーニングを習得する	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	アサーショントレーニング		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	まとめ	テキスト 配布プリント	演習に必要な項目を抽出しておく
		各コマにおける授業予定	今までの授業の振り返り、終講試験（50分）		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	在宅援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担当教員	井上 奈美江 森川 由紀美	実務経験とその関連資格	病院勤務 訪問看護ステーション勤務 看護師免許 介護支援専門員免許 訪問看護ステーション勤務			

《授業科目における学習内容》

在宅における療養者と家族に対して、個別性に応じた医療的ケアや看護について、演習を通して学習する。

《成績評価の方法と基準》

終講試験 井上 40% 森川 60%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア(メディカ出版)
ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②在宅療養を支える技術(メディカ出版)

《授業外における学習方法》

ニュースや新聞、厚生労働省のホームページを閲覧し、社会情勢を理解するよう自己学習すること。アイディアなど柔軟な発想が求められる。グループワークや演習もあるため、欠席しないこと。積極的に取り組むこと。

《履修に当たっての留意点》

訪問看護における具体的な在宅療養者への援助ついて学習する。臨地実習の内容と結びつけながら理解を深めること。

授業の方法			内　容	使用教材	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅における呼吸器管理及び緊急時対応、家族への指導の要点がわかる	テキスト資料	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅におけ呼吸器管理(HOT・NPPV)の実際(一部、演習)		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅における栄養管理と医療廃棄物の取り扱いがわかる	テキスト資料	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅における栄養管理(ポート、中心静脈栄養法)の実際(一部、演習)		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅におけるストーマを造設した療養者の自立支援(社会復帰)について自分の意見が言える。	テキスト資料	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅における排泄管理(ストーマ)の実際(一部、演習)		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	排泄管理が必要な在宅療養者のQOLの向上と必要な看護がわかる	テキスト資料	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅における排泄管理(自己導尿・バルーン管理)の実際(一部、演習)		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	腹膜透析患者のQOL向上及び生活の維持について、必要な看護がわかる	テキスト資料	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅における腹膜透析の実際(一部、演習)		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅における洗髪ケアについて、観察及び物品の工夫や手順等が安全・安楽に実施でき、経済性や継続性も考えられる	テキスト 資料	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	在宅における洗髪について経済性等を考慮した計画が立てられる （GW）		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅における洗髪ケアについて、観察及び物品の工夫や手順等が安全・安楽に実施できる	演習	厚生労働省のHP閲覧・ニュース番組・新聞の閲覧
		各コマにおける授業予定	洗髪のケア・体位の工夫等演習		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	学習を振り返ることができる	テキスト 資料	テキスト、資料で振り返る
		各コマにおける授業予定	終講試験　まとめ		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	病態治療学VI	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	2年生教室
担当教員	谷 康平	実務経験とその関連資格	Stanford大学大学院research fellow　社会医学環境衛生研究所所長など歴任		

《授業科目における学習内容》

看護の対象である人間の機能障害の成り立ちを学び、その機能障害に対する治療を理解する。
病態治療学VIでは内分泌・代謝機能障害の病態と検査、治療について学習する。

《成績評価の方法と基準》

終講試験　100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

病態生理学(医学書院)
内分泌・代謝 (医学書院)

《授業外における学習方法》

解剖図を描き、その病態を理解する。
正常な臓器の機能の、どこがどのように障害される病気なのかを理解できるように学習する。その上で、症状、検査、治療の理解へと進むこと。

《履修に当たっての留意点》

機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、 病体治療学の前に復習しておくこと

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	視床下部疾患について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる.友達同士で問題を出し合いながら学習する
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害　視床下部疾患		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	甲状腺疾患について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる.友達同士で問題を出し合いながら学習する
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害　甲状腺疾患		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	副甲状腺疾患について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる.友達同士で問題を出し合いながら学習する
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害　副甲状腺疾患		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	副腎疾患について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる.友達同士で問題を出し合いながら学習する
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害　副腎疾患		
第	講	授業を通じての到達目標	アルドステロン症、クッシング症候群について説明できる		事前にテキストを読んで

5回	我形式	各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害　アルドステロン症、クッシング症候群	テキスト	くる.友達同士で問題を出し合いながら学習する

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	糖尿病について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる.友達同士で問題を出し合いながら学習する
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害　糖尿病		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛風、高脂血症について説明できる	テキスト	事前にテキストを読んでくる.友達同士で問題を出し合いながら学習する
		各コマにおける授業予定	内分泌・代謝機能障害　痛風、高脂血症		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌・代謝機能障害の病態と検査、治療をまとめることができる	テキスト	事前にテキストを読んでくる.友達同士で問題を出し合いながら学習する
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第		授業を通じての到達目標			

15回		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	老年看護学実習Ⅰ-A		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	40 (1) 時間(単位)
対象学年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	実習病院
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

①受け持ち患者のバイタルサイン測定を実施し、フィジカルアセスメントをする
②受け持ち患者とのコミュニケーションや日常生活援助を通して、療養生活や精神・心理面、社会面の情報を得し、必要な支援について考える。

《成績評価の方法と基準》

評価表にて、臨地実習指導者および担当教員で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

メディカ出版:高齢者の健康と障害、高齢者看護の実践

《授業外における学習方法》

実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、対象の状況に合わせて実習事前学習および追加学習を行う。

《履修に当たっての留意点》

事前学習・追加学習は必ず行うこと。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な情報を述べることができる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	①病院および病棟オリエンテーション ②受け持ち患者とのコミュニケーションおよび情報収集		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な情報を意図的に収集できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の療養環境を整える ②受け持ち患者とのコミュニケーションおよび情報収集		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者のフィジカルアセスメントに必要な観察ができる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の療養環境を整える ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の見学(実施)		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者のフィジカルアセスメントができる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の療養環境を整える ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第	実習	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の状態のアセスメントから、必要な支援について述べることができる		事前学習/追加学習を

5回	実習形式	各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の療養環境を整える ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価	ペーパー/リフレクションノート	十分に行って実習に臨むこと

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第7回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第8回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第		授業を通じての到達目標			

… 15 回		各コマに おける 授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	成人援助論VI		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担当教員	高山良子	実務経験とその関連資格	看護師			

《授業科目における学習内容》

終末期にある対象と家族の治療と苦痛の理解と対象と家族の意志を尊重し、その人らしく過ごせるための支援について考えることができる。

《成績評価の方法と基準》

終講試験

《使用教材(教科書)及び参考図書》

緩和ケア(医学書院)
がん看護学(医学書院)

《授業外における学習方法》

厚生労働省ホームページほか

《履修に当たっての留意点》

教科書を読んで、予習すること。既習の科目と併せて学習していくようにする。授業で習ったことをもとに、自分の考えをまとめておく。事例を読んでおくこと。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	死について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかり確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	死の理解①生物学的な死②法律上の死③文化的な死④社会的な死		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期における医療の現状について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかり確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	・終末期と終末期医療 ・日本における終末期医療と看護 ・終末期医療の歴史		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期における医療の目的と場の特性について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかり確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	・患者の意向と医療、ケアの提供 ・終末期の患者が望む医療 ・終末期医療の場の特徴		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	緩和ケアについて理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかり確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	・緩和ケアの考え方、緩和ケアの対象 ・全人的苦痛・包括的アセスメント ・苦痛の緩和・セルフケア支援 ・チームアプローチにおける連携・家族支援		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通して、終末期にある患者について理解することができる。(全体像のアセスメント)	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかり確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	終末期にある患者の特徴 ・身体的、精神的、社会的、スピリチュアル的特徴		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期にある患者の家族へのケアのありかたについて理解することができる。(家族のアセスメント)	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかり確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	家族看護と家族 大切な人が終末期にある家族の体験 遺された家族の体験		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期医療における看護の機能・役割について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかり確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	①終末期医療における看護のかかわり ②終末期医療における看護の成果 ③終末期医療における看護の専門性		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期医療における多職種連携と看護の役割について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかり確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	・終末期医療、ケアにおけるチーム医療 ・医療チームの種類と要件		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期患者とのコミュニケーション方法について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかり確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	・悪い知らせを伝える際のコミュニケーション ・終末期の意思決定場面におけるコミュニケーション		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	終末期患者とのコミュニケーション方法について理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかり確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	・治療中止時期のコミュニケーション ・終末期のコミュニケーション(コミュニケーションの実際)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	臨死期のケアについて理解できる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかり確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	臨死期に特徴的な症状や問題		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	臨終後のケアについて理解することができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	事例をしっかり確認し、予習をして臨むこと。
		各コマにおける授業予定	・臨終後の流れ ・死亡確認 ・エンゼルケア(DVD)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	終末期医療における看護師の役割について考えることができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	これまでの授業の振り返りをしておく。
		各コマにおける授業予定	・化学療法、放射線療法を受けている患者への看護		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	終末期医療における看護師の役割について考えることができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	これまでの授業の振り返りをしておく。
		各コマにおける授業予定	・最期の時を過ごす、対象と家族との関わり ・死生観について考える		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	終末期の必要な看護について内容をまとめることができる。	終末期看護;エンド・オブ・ライフ・ケア(メヂカルフレンド社)	これまでの授業の振り返りをしておく。
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学科	看護学科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	臨床援助論Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担当教員	川本　みよこ	実務経験とその関連資格	看護師として病棟勤務		

《授業科目における学習内容》

日々進化していく医療現場での薬物療法の実際や、救命救急処置・輸血・酸素療法等を学び、安全な投与を行うことは患者が治療を受けるための看護師の重大な責務のひとつである。これまでに学んだ基礎医学の知識を基に、看護師として必要な基礎的知識と技術を学び実践することができるようにしていく。

《成績評価の方法と基準》

終講試験(100%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

基礎看護技術Ⅱ(医学書院)、看護がみえる①基礎看護技術(メディックメディア)、看護につなげる形態機能学(メヂカルフレンド社)、臨床看護総論(医学書院)

《授業外における学習方法》

解剖生理・薬理学など必要と思われる基礎知識を復習して講義に臨むこと。看護師の知識の無さは　患者の生命にかかわる。看護師としての原理・原則に基づいた確実な知識と技術を身につける努力をすること。

《履修に当たっての留意点》

全ての提出物は、必ず指定された形式で完成させて期日厳守の上提出すること。守れない場合は加点対象にはならない。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	与薬に関する基礎的知識、薬物の投与方法について他者に説明できる	テキスト/パソコン/パワーポイント	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	与薬の基礎知識、経口与薬　舌下　点鼻　点耳　皮膚貼付剤　吸入　直腸内投与		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	皮内注射・皮下注射についての原理原則を説明できる	テキスト	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	注射の基礎　　皮内注射　皮下注射		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋肉注射・静脈内注射についての原理原則を説明できる	テキスト	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	注射の基礎　筋力注射　静脈内注射		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	点滴静脈内注射の管理方法や看護の基本について説明できる	テキスト	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	点滴ルートの取り扱いと接続方法・固定・滴下数調整の技術/観察点		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱いの基本が説明できる	テキスト	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱いと看護		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を活用し、筋肉注射が実施できる	テキスト	事前レポート
		各コマにおける授業予定	筋肉注射の実際と看護		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を活用し、筋肉注射が実施できる	筋肉注射使用物品	事前レポート
		各コマにおける授業予定	筋肉注射の実際と看護		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	輸血に関する基礎知識がわかり、輸血を受ける患者の看護の基本を述べることができる	筋肉注射使用物品	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	輸血とその看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1次及び2次救急救命処置技術の基本が説明できる	テキスト/パソコン/パワーポイント	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	救命救急の技術		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を活用して1次救急救命処置を実施することができる	AED、BLS模型	事前レポート
		各コマにおける授業予定	BLS　ALS　AED　の実際		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を活用して1次救急救命処置を実施することができる	AED、BLS模型	事前レポート
		各コマにおける授業予定	BLS　ALS　AED　の実際		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸を整える基礎的知識がわかるようになる	テキスト	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	呼吸を整える援助技術、酸素吸入、吸引、排痰ケア		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を活用して、酸素吸入・吸引の技術が実施できる	吸引模型、カテーテル、・酸素マスク/カニューラ、酸素ボンベ等	事前レポート
		各コマにおける授業予定	酸素吸入・吸引、排痰ケアの実際 と看護		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	模型を活用して、酸素吸入・吸引の技術が実施できる	吸引模型、カテーテル、・酸素マスク/カニューラ、酸素ボンベ等	事前レポート
		各コマにおける授業予定	酸素吸入・吸引、排痰ケアの実際 と看護		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	解剖生理の基礎知識と生殖・発生の仕組みをまとめることができる	テキスト	授業内容に関連した箇所の事前学習・ノートまとめを行って授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	母性看護学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対象学年	2年次または3年次		学期及び曜時限	通年	教室名	実習病院
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師または助産師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

周産期における母子の生理的変化や心理・社会的特徴を理解し、母子及びその家族が順調な経過をたどり、よりよい状態へ促進するための看護を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

評価表にて、臨地実習指導者および担当教員で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

ナーシンググラフィカ　母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　母性看護学②母性看護の実践　メディカ出版　ナーシンググラフィカ　母性看護学③母性看護技術　メディカ出版　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　女性生殖器　成人看護学9　医学書院　その他参考資料
産科病棟及び、産婦人科外来での実習

《授業外における学習方法》

実習事前学習:・実習オリエンテーションの内容・実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、必要な学習を自身で考え選択し、実習ノートに学習内容を記載する。
実習開始後は、日々の実習内容の振り返りと目標達成度を評価する。また次の実習日のための追加学習を行い、実習計画を立案する。

《履修に当たっての留意点》

事前学習を整え、母性看護技術の学内演習を予め行った上で実習に臨むこと

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	実習オリエンテーション/周産期の母児の受持ちと看護展開		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	周産期の母児の受持ちと看護展開		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	周産期の母児の受持ちと看護展開		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	母子及び家族をウェルネスの視点で捉えることを通して対象のセルフケア確立やエンパワメントを尊重した看護を展開できる	白衣/シューズ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	周産期の母児の受持ちと看護展開/最終カンファレンス		
第	実習	授業を通じての到達目標	病棟実習での受け持ち母子の看護についてまとめることができる		事前学習/追加学習を

5回	実習形式	各コマにおける授業予定	実習まとめ	レポート/リフレクションノート	十分に行って実習に臨むこと

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	保健室実習を通して、思春期の女性が抱える現状をとらえ、その看護の役割について考えることができる	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	高等学校保健室実習		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	子育て支援事業に参加し、子育て世代の母親の現状や悩みを知ることで、看護の役割を考えることができる	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	保育所(子育て支援事業)実習①		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子育て支援事業に参加し、子育て世代の母親の現状や悩みを知ることで、看護の役割を考えることができる	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	保育所(子育て支援事業)実習②		
第9回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	更年期女性への健康教育を通して、看護師の役割について考える	スーツ/リフレクションノート	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	学内実習：更年期健康教育		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	周産期の母子に対する看護師の役割や社会資源の活用について、グループ内発表を通じて意見を述べることができる	参考資料	事前学習/追加学習を十分に行って実習に臨むこと
		各コマにおける授業予定	母子保健活動(社会資源)に関する学習活動		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第		授業を通じての到達目標			

… 15 回		各コマに おける 授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	臨床援助論Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担当教員	中村　晶	実務経験とその関連資格	循環器、呼吸器、内分泌病棟で勤務、糖尿病療養指導士			

《授業科目における学習内容》

今までの基礎看護学で学んだ知識・技術を統合し、実際の臨床でどのように応用するかを学ぶ科目である。
・一般検査および身体浸襲を伴う検査・処置時の看護の役割を安全・安楽の視点で理解する。
・医療機器の目的と安全に操作する知識を獲得する。
・無菌操作の基礎的知識を理解し、導尿の技術をおこなう

《成績評価の方法と基準》

レポート:15%　終講試験:85%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

看護がみえる　voi.1　基礎看護(メディックメディア)　基礎看護技術Ⅱ(医学書院)　他　随時紹介します

《授業外における学習方法》

解剖生理・病態治療学など必要と思われる基礎知識を復習して講義に臨むこと。看護師の知識の無さは患者の生命にかかわる。看護師としての原理・原則に基づいた確実な知識と技術を身につける努力をすること。

《履修に当たっての留意点》

全ての提出物は、必ず指定された形式で完成させて期日厳守の上提出すること。守れない場合は加点対象にはならない

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	無菌操作の原理原則を理解した上で滅菌物の取り扱いができるようになる	テキスト/無菌操作物品/レポート用紙	授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	無菌操作の基礎的知識・無菌物の取り扱いについて		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	滅菌ガウンと滅菌手袋の装・脱着、鉗子操作ができる	テキスト/無菌操作物品	事前レポートを期日までに提出し演習に臨むこと。また、演習後には振り返りを行い、期日までに提出すること
		各コマにおける授業予定	無菌手袋の装着　鉗子操作、個人防護用具の着用方法とはずしかた		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	創傷の治癒過程・及び創傷ケアの原理原則が説明できるようになる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護:創傷の処置と看護		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	褥瘡及び創傷ケアを受ける患者の看護が説明できるようになる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護:褥創ケア		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	検査における患者の侵襲を考えながら検体の取り扱いの基礎について説明できるようになる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	診察/ 検査時の看護　検体の採取、取り扱いについて		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な検査における患者への看護の基本が説明できるようになる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	検査場面における援助の留意点と実際		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	模型を用いて静脈血採血ができるようになる	演習/採血物品	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	検査場面における具体的援助(採血演習)①		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	模型を用いて静脈血採血ができるようになる	演習/採血物品	事前レポートを期日までに提出し演習に臨むこと。また、演習後には振り返りを行い、期日までに提出すること
		各コマにおける授業予定	検査場面における具体的援助(採血演習)②		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	臨床で用いられる主な医療機器の原理と実際を理解し説明ができるようになる	テキスト/当該医療機器	事前レポートを期日までに提出し演習に臨むこと。また、演習後には振り返りを行い、期日までに提出すること
		各コマにおける授業予定	医療機器の原理と実際(心電図モニター・パルスオキシメータ)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	導尿、尿留置カテーテルについて説明できるようになる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	排泄に関する処置(一時的・持続的導尿の目的、留意点、実施方法)		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	一次的導尿、尿留置カテーテルの一連の流れが体験できる	テキスト/一時的導尿物品	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	排泄に関する処置(導尿)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	一次的導尿、尿留置カテーテルの一連の流れが体験できる	テキスト/一時的導尿物品	事前レポートを期日までに提出し演習に臨むこと。また、演習後には振り返りを行い、期日までに提出すること
		各コマにおける授業予定	排泄に関する処置(導尿)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体侵襲を伴う検査とその看護の基本が説明できるようになる	テキスト	事前レポートを期日までに提出し演習に臨むこと。また、演習後には振り返りを行い、期日までに提出すること
		各コマにおける授業予定	身体浸襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護:(胸腔穿刺・腹腔穿刺・骨髄穿刺・腰椎穿刺)		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	止血法の原則や基礎的な包帯法の実際が実施できる	テキスト/環軸包帯	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	止血・包帯法		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床援助論Ⅰで学んだことをまとめることができる	テキスト	授業範囲の復習と、授業終了時に伝えるテキストの範囲を予習して授業に臨むこと
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習演習
科目名	成人看護学実習Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80　(2)　時間(単位)
対象学年	2年次、3年次		学期及び曜時限	通年	教室名	臨地実習先
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

慢性疾患や障害など健康障害を抱えて生活している成人期にある患者とその家族が、その人らしい社会生活が送れるためにセルフマネジメント能力獲得の必要性の理解と、その支援を行うための基礎的能力を習得する。

《成績評価の方法と基準》

臨床実習での評価100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

実習要項、各自必要と考える教科書

《授業外における学習方法》

各実習施設での担当患者の看護実践に必要な学習を実習開始前・実習中に追加学習をに行う。病院実習での学びについて所定の様式で実習記録として記載する。

《履修に当たっての留意点》

①学習計画を立案、事前学習を行い実習に臨む②学生としての身だしなみ・態度で実習に臨み、健康管理を行う③プライバシーの保持と他者との約束事項を守る④必要な報告・連絡・相談をする⑤知識・技術が取得できるよう積極的に取り組む

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	事例患者のセルフケア能力確立に向けた指導案の立案や指導のイメージができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	事前学習 実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査・治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	事例患者の指導案立案、ロールプレイ 病院オリエンテーション 事前課題の確認　自己・グループの目標発表		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	担当患者の看護の方向性について表現することができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション・担当患者の情報収集・担当患者の決定		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	慢性疾患や健康障害を抱えることによる精神的な揺らぎや障害の受容過程について表現できる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康障害を持ちながらも、その人らしく生活できるようにセルフケアマネジメント能力を獲得するための援助方法を考えることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表　担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象の健康障害のメカニズム(病態)とその程度、関連する因子を理解し、表現することができる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	関連図・看護計画発表　担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	中間カンファレンス　個人目標・グループ目標の到達度、担当患者の看護の中間評価		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対してセルフケア確立への援助が実施できる①	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	対象や家族に対してセルフケア確立への援助が実施できる②	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	担当患者の看護の実施・追加・修正、情報収集		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	個人目標・患者目標・グループ目標を元に評価・残された課題を明確にし、発表することができる	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	最終カンファレンス　個人目標・グループ目標の到達度、担当患者の看護の最終評価		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習での経験を通して、学びをまとめることができる。	実習要項 各自必要と考えるテキスト、実習ノート、担当患者、指導者や看護師との関わり	実習内容の理解　看護実践に必要な疾患・検査治療を含めた学習
		各コマにおける授業予定	慢性疾患や健康障害を持つ患者や家族への関わり、看護師の役割についてまとめ、発表し、自身の視野を広げる		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科			科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	成人援助論Ⅴ			必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	2年生			学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担当教員	川本　みよこ　細山田　啓志	実務経験とその関連資格		川本　細山田:看護師			

《授業科目における学習内容》

成人看護学領域で急激な健康破綻をもたらすものはどのようなものがあるか手術療法を中心に学習し、その人々の心身の苦痛に対して推測し、看護ケアに役立てることが出来る。看護過程を通して手術前後の看護の実際をシュミレーションし、看護の実際を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

終講時の試験を60%、レポート(課題提出)を40%として評価する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

臨床外科看護総論(医学書院)
臨床外科看護各論(医学書院)
はじめてのドレーン管理(メディカ出版)

《授業外における学習方法》

自己学習を積極的に行い理解を深めていくこと
図書室の活用をすること

《履修に当たっての留意点》

予習復習を必ず行う。提出物は期限厳守すること。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	周手術期看護の特徴・手術侵襲による生体反応について述べることができる	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	周手術期看護の特徴・手術侵襲(ムーアの分類)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者と家族への精神的援助/術前検査のアセスメント/術前オリエンテーションについて述べることができる	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	術前看護について①(患者と家族への精神的援助/術前検査のアセスメント/術前オリエンテーション)		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体の準備/低栄養/術前訓練と処置について述べることができる	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	術前看護について①(身体の準備/低栄養/術前訓練と処置)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術室の環境と看護について理解し、述べることができる	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	術前・術中看護について(手術当日の看護/手術室の環境と看護について/麻酔と看護)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	クリティカルケアを受ける患者の看護について述べることができる	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	クリティカルケアを受ける患者の看護(ICU看護)		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	術後合併症予防にむけた看護について説明することができる。	テキスト(臨床外科看護総論・ドレーン管理)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	術後看護について①(疼痛管理／ドレーン管理／出血管理／創傷管理/呼吸音・腸蠕動音聴取)		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	回復を促進にむけた看護について説明することができる。	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	疼痛管理・創傷管理、早期離床		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	社会復帰に向けた支援について説明することができる。	テキスト(臨床外科看護総論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	術後の生活の再構築、社会資源の活用、家族看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	計画に基づき、演習することができる	7階演習室使用 看護師役・患者役の服装準備 演習課題準備	演習計画を立案しておく
		各コマにおける授業予定	回復を促進するための看護(術後清拭・バルン抜去・第一歩行)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔下で手術を受けた患者に対する術後の情報を整理することができる。	テキスト(臨床外科看護総論・各論)	事例における事前学習を進めておく アセスメントの資料をあつめておく
		各コマにおける授業予定	周手術期の看護過程(全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の情報の整理)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後のアセスメントを計画的に進めることができる	テキスト(臨床外科看護総論・各論)	事例における事前学習を進めておく アセスメントの資料をあつめておく
		各コマにおける授業予定	周手術期の看護過程(全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後のアセスメント)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後のアセスメントを発表することができる	テキスト(臨床外科看護総論・各論)	アセスメントを計画的に進め発表できる準備をしておく
		各コマにおける授業予定	周手術期の看護過程(全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後のアセスメント)		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の関連図を作成することができる	テキスト(臨床外科看護総論・各論)	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の関連図の資料を集めておく
		各コマにおける授業予定	周手術期の看護過程(全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の関連図)		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の看護計画立案を計画的に進めることができる	テキスト(臨床外科看護総論・各論)	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の計画の資料を集めておく
		各コマにおける授業予定	周手術期の看護過程(全身麻酔下での手術を受けた患者に対する術後の看護計画)		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔下での手術を受けた患者に対する看護についてまとめることができる。	テキスト(臨床外科看護総論・各論)	指定したテキストを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	小児看護学実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対象学年	2年生または3年生		学期及び曜時限	通年	教室名	臨地実習先
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

子どもと家族を理解し、子どもの成長発達および健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的能力を修得する。

《成績評価の方法と基準》

実習評価　100%（病院: 70%、保育所: 30%）

《使用教材(教科書)及び参考図書》

小児看護学概論　小児看護学Ⅰ　医学書院
小児看護学各論　小児看護学Ⅱ　医学書院
e-ナーストレーナ

《授業外における学習方法》

小児における既習の知識と技術を再確認しておくこと。また必要な追加学習をタイムリーに行うこと。

《履修に当たっての留意点》

子どもと関わる上で学生としての態度を忘れず、体調管理に留意する。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	自己のビジョン・ゴールを明確にできる。患児・家族との関わりについて考え、実践し振り返ることができる。[実践活動の場以外で行う学習]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	事前学習 追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	実習前オリエンテーション　事故防止の視点の学習 各発達段階にある子どもへの関わりの実践 付き添いをする家族への関わりの実践		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	患児の成長発達や症状などに合わせ、コミュニケーション技術を活用しながら関わり情報収集することができる。[病院実習1日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	病棟オリエンテーション、受け持ち患児・家族の情報収集、VS測定 日常生活援助、患児家族の望ましい姿を考える、カンファレンス		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	患児・家族の個別性に合わせた安全・安楽な看護を指導のもと実践でき、振り返ることができる。[病院実習2日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	・望ましい姿へ向けた受け持ち患児・家族への援助 情報収集、VS測定、日常生活援助、計画の修正、カンファレンス		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	患児・家族の個別性に合わせた安全・安楽な看護を指導のもと実践でき、振り返ることができる。[病院実習3日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	・望ましい姿へ向けた受け持ち患児・家族への援助 情報収集、VS測定、日常生活援助、計画の修正 ・「子どもの権利を保障する看護」についてカンファレンス		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	患児・家族の個別性に合わせた安全・安楽な看護を指導のもと実践でき、振り返ることができる。[病院実習4日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	事前学習 追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	・望ましい姿へ向けた受け持ち患児・家族への援助 情報収集、VS測定、日常生活援助、計画の修正 ・最終カンファレンス		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	患児・家族の3側面を作成し必要な看護を見出すことができる。[実践活動の場以外で行う学習]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	必要な看護を見出すために根拠を持って3側面の関連性を考え、他者に伝わるように発表する。		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	保育所の特徴や安全対策について述べることができる。[保育所実習1日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	各年齢のクラスに入り、保育士の指導のもと、子どもと関わることができる。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	子どもの反応の意味を考えながら関わることができる。[保育所実習2日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	各年齢のクラスに入り、保育士の指導のもと、子どもと関わることができる。		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	子どもの成長発達段階や個別性に応じた関わりを実践できる。[保育所実習3日目]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	各年齢のクラスに入り、保育士の指導のもと、子どもと関わることができる。子どもがより健やかに成長発達を遂げていくための支援についてまとめ、自己の課題を明確にできる。		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	療養による子どもや家族の様々な変化について理解し、成長発達を促す看護をまとめることができる。[実践活動の場以外で行う学習]	小児看護学概論 小児看護学各論 その他、受け持ち患者を理解するための教材	追加学習 実習記録
		各コマにおける授業予定	テーマを設定し、そのテーマに沿って振り返り、まとめ、発表する。		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	多職種連携		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	細山田啓志／柳田舞	実務経験とその関連資格	看護師として病棟勤務			

《授業科目における学習内容》

この授業は、医療職間での連携と医療職(看護)と福祉職との連携で構成される。
他学科とのグループワークを経験し、多職種に対しての理解を深め、多職種との連携の必要性とチーム医療、ヘルスケアチームについて学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

細山田:50%(終講試験30%、レポート20%)　　柳田:50%(終講試験30%、レポート20%)

《使用教材（教科書）及び参考図書》

看護と介護の連携ワークブック

《授業外における学習方法》

多職種についての理解を深めりため医療・介護・福祉に関係するニュース等を確認する
授業前後のレポートを必ず提出すること。

《履修に当たっての留意点》

連携授業では、ワークブックをもちいて授業を展開する。グループワークでは、積極的に発言し協力して学びを深める

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護の専門性について考察し、述べることができる	資料	保健師助産師看護師法について調べておく
		各コマにおける授業予定	保健師助産師看護師法における看護師の業務　・看護理論		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療職間での連携の必要性がわかる。また、理学療法士・作業療法士の役割と業務がわかる	資料	理学療法士について 作業療法士について 仕事内容等調べておく
		各コマにおける授業予定	理学療法士・作業療法士の役割と業務		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚士・視能訓練士の役割と業務がわかる	資料	言語聴覚士について 視能訓練士について 仕事内容等を調べておく
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士・視能訓練士の役割と業務		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護師および他の医療専門職の役割について理解し、表現できる。	資料	看護職の専門性についてまとめておく
		各コマにおける授業予定	多職種学生との事例検討　GW		
第	講義	授業を通じての到達目標	事例を通して、必要な情報を共有することの必要性が理解できる		チーム医療とは 多職種連携の必要性

第5回	講義演習形式	各コマにおける授業予定	多職種学生との事例検討　GW	資料	多職種連携の必要性 事例患者の病態・治療・検査・治療・看護について

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例について、対象患者の必要とされる様々な専門職としての支援と連携がわかる	資料	チーム医療とは 多職種連携の必要性 事例患者の病態・治療・検査・治療・看護について
		各コマにおける授業予定	多職種学生との事例検討　GW		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例ついて、退院後の在宅医療にむけての支援と連携それぞれの専門性を活かした援助を明確にする。	資料	チーム医療とは 多職種連携の必要性 事例患者の病態・治療・検査・治療・看護について
		各コマにおける授業予定	多職種学生との事例検討　GW		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療職（看護）と福祉職等との連携の必要性がわかる	連携ワークブック	連携ワークブックを用い学習した内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	ゲストティーチャーからの医療職と福祉職の連携の実際		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	医療職と福祉職の考え方、相違点について説明できる	連携ワークブック	連携ワークブックを用い学習した内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	介護過程について 倫理要領からみる看護・介護の相違点 看護職と介護職の考え方の傾向について		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	医療職と福祉職との連携の必要性について説明できる	連携ワークブック	連携ワークブックを用い学習した内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	社会福祉士の役割について、保育士の役割について		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	医療職・福祉職の連携グループで良好な関係を築くためのコミュニケーションが取れる	連携ワークブック	連携ワークブックを用い学習した内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	看護、介護、社会福祉、保育でのチームビルディング （レクリエーション）		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワークで看護学生として意見を述べ、また、相手を尊重したコミュニケーションが取れる	連携ワークブック プリント	具体的なケアを考える
		各コマにおける授業予定	事例についてのケアを考える　GW		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例の情報等を共有することの必要性が理解できる	連携ワークブック プリント	具体的なケアを考える
		各コマにおける授業予定	合同授業で事例についてのケアを考える　GW		
第	講義	授業を通じての到達目標	看護学生として意見を述べ、職種間からの価値基準の違いに気が付くことができる。		

第14回	演習形式	各コマにおける授業予定	事例についてのケアを考え、発表準備　GW	連携ワークブックプリント	具体的なケアを考える
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループワーク等で共同したことから考察し、共同するために必要な態度や事柄を述べることができる	発表資料	連携の必要性について 事例内容について
		各コマにおける授業予定	事例発表・評価　レポート提出		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	老年看護学実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対象学年	2年次・3年次		学期及び曜時限	後期	教室名	臨地実習先
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

健康障害をもつ老年期の患者を受け持ち、その患者の看護問題に対する看護計画の立案・実施・評価ができる

《成績評価の方法と基準》

評価表にて、臨地実習指導者および担当教員で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

メディカ出版:高齢者の健康と障害、高齢者看護の実践

《授業外における学習方法》

実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、対象の状況に合わせて実習事前学習および追加学習を行う。

《履修に当たっての留意点》

事前学習・追加学習は必ず行うこと。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	1. 病棟の特徴・機能を述べることができる 2. 受け持ち患者の看護に必要な情報を意図的に収集する	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①病棟オリエンテーション ②受け持ち患者とのコミュニケーションおよび他の情報源からの情報収集		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な観察およびフィジカルアセスメントができる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション・情報収集 ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の見学(実施)		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に必要な日常生活援助が述べられる。	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション・情報収集 ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施(見学)とリフレクション		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の全体像が述べられる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント ②自己の看護のリフレクション③受け持ち患者の全体像を因子間の関連とともに表現		
第	実	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護上の問題と看護の方向性が述べられる		

5回	実習形式	各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③受け持ち患者の看護問題の抽出	受け持ち患者	実習要項参照

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護計画を具体的に表現できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③看護計画の具体化		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	アセスメントおよびリフレクションから、受けもち患者の看護計画を追加・修正できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③看護計画の追加・修正		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	アセスメントおよびリフレクションから、受けもち患者の看護計画を追加・修正できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者の状態のアセスメント　②自己の看護のリフレクション③看護計画の追加・修正		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者への看護について評価し、今後の課題を述べることができる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者への看護について、患者の状態および自己の言動から評価する　②今後（後半）の実習に向けて課題をあげる		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	実習を通して培った老年看護観について、その理由とともに述べられる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者に対する看護について参考文献や資料を用いて評価し、文章で表現する　②老年観とその理由を文章で表現する		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第		授業を通じての到達目標			

… 15 回		各コマに おける 授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	看護研究Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担当教員	石原　啓之	実務経験とその関連資格	滋慶大学大学院　助教			

《授業科目における学習内容》

看護研究の目的および研究の基礎を学び、批判的思考や研究的態度を身につける。

《成績評価の方法と基準》

終講試験70%　レポート30点

《使用教材(教科書)及び参考図書》

系統看護学講座　別巻　看護研究を使用する。参考図書は随時、紹介する。

《授業外における学習方法》

講義と研究デザインの演習をしながら、看護研究の方法を学ぶ。

《履修に当たっての留意点》

講義を聴くだけでなく、演習においては、「調べる」「確認する」「相談する」など自発的な学習をする。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護研究の目的が説明できる	系統看護学講座 別巻　看護研究 (医学書院) 資料	系統看護学講座別巻看護研究の序章から第2章、終章を学習しておく
		各コマにおける授業予定	看護研究とは　看護研究の目的・意義(EBP,EBN) 研究のテーマを見つける(リサーチクエスチョン) リサーチクエスチョンと研究デザイン		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	文献レビューの目的、文献検索の方法が理解できる。	系統看護学講座 別巻　看護研究 (医学書院) 資料	系統看護学講座別巻看護研究の第4・5章、第11章を学習しておく
		各コマにおける授業予定	研究の種類と研究方法 質的研究と量的研究の研究デザイン 研究における倫理(倫理的配慮、依頼書と同意書)		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	文献レビューの目的、文献検索の方法がわかる。	系統看護学講座 別巻　看護研究 (医学書院) 資料	リサーチクエスチョンを考えてくる 系統看護学講座別巻看護研究の第3章、第9章の付録文献クリティークを学習しておく
		各コマにおける授業予定	研究のプロセス①文献レビューと文献を読む(先行研究を知る、資料を集める)		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究計画立案の仕方が理解できる	系統看護学講座 別巻　看護研究 (医学書院) 資料	系統看護学講座別巻看護研究の第8章を学習しておく
		各コマにおける授業予定	研究のプロセス②研究計画を立てる(研究デザインの選択、倫理的配慮)		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	情報の収集と分析の方法が理解できる	系統看護学講座 別巻　看護研究 (医学書院) 資料	系統看護学講座別巻看護研究の第6章・第7章を学習しておく
		各コマにおける授業予定	研究のプロセス②データを分析する		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	論文の構成と書き方が理解できる	系統看護学講座別巻　看護研究(医学書院) 資料	系統看護学講座別巻看護研究の第9章(研究成果・考察の書き方、図表のルール、抄録の書き方、研究論文の推敲)を学習しておく
		各コマにおける授業予定	研究のプロセス③研究を伝える(研究成果を論文にまとめる)		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究成果を論文に表し、発表する方法やプレゼンテーションの方法がわかる	系統看護学講座別巻　看護研究(医学書院) 資料	系統看護学講座別巻看護研究の第9章(学会発表、発表の形式)、を学習しておく
		各コマにおける授業予定	研究のプロセス④研究成果を伝える (研究成果をプレゼンテーションする:論文の投稿)		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護研究のプロセスを説明できる	系統看護学講座別巻　看護研究(医学書院) 資料	系統看護学講座別巻看護研究の第9章(学会発表、発表の形式)、を学習しておく
		各コマにおける授業予定	まとめ、終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	老年看護学実習Ⅰ-B		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	80 (2) 時間(単位)
対象学年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	臨地実習先
担当教員	各実習施設担当者	実務経験とその関連資格	実習指導教員:看護師として5年以上の経験がある教員 専任教員:看護師として5年以上の経験かつ所定の看護専任教員プログラム終了したもの、もしくは大学にて教育に関する科目4単位以上修得している教員			

《授業科目における学習内容》

①受け持ち患者の健康段階や日常生活自立度に応じて、安全・安楽・自立に向けた援助が実施できる。
②受け持ち患者とのかかわりや日常生活援助を通して、身体面・心理面・社会面を把握し、看護問題を抽出する。

《成績評価の方法と基準》

評価表にて、臨地実習指導者および担当教員で評価し、100点満点中60点以上で合格とする。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

メディカ出版:高齢者の健康と障害、高齢者看護の実践

《授業外における学習方法》

実習要項の学習課題やルーブリック評価表を参照し、対象の状況に合わせて実習事前学習および追加学習を行う。

《履修に当たっての留意点》

事前学習・追加学習は必ず行うこと。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な情報を意図的に収集できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①病院および病棟オリエンテーション ②受け持ち患者とのコミュニケーションおよび情報収集		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な情報を意図的に収集できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①病院および病棟オリエンテーション ②受け持ち患者とのコミュニケーションおよび情報収集		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護に必要な観察ができる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者のフィジカルアセスメントができる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第	実	授業を通じての到達目標	受け持ち患者に必要な援助が根拠とともに述べられる		

5回	実習形式	各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価	受け持ち患者	実習要項参照

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の安全・安楽・自立に向けた援助が述べられる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の安全・安楽・自立に向けた援助が実施できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の安全・安楽・自立に向けた援助が実施できる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	受け持ち患者の看護問題を根拠とともに述べる	受け持ち患者	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②受け持ち患者の検温および日常生活援助の実施・評価		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習を通して培った老年観をその根拠とともに述べる	老年看護学ﾃｷｽﾄ他	実習要項参照
		各コマにおける授業予定	①受け持ち患者とのコミュニケーション、援助のリフレクション ②老年観とその根拠となった事象について文章で表現する		
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第		授業を通じての到達目標			

… 15 回		各コマに おける 授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	国際看護Ⅰ		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	16 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	海外または教室
担当教員	海外事業部職員、引率教員、現地協力員	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

海外研修視察により、海外の医療事情および看護のあり方の実際について学ぶ。　1.他国の医療事情について文化との関連から考えることができる。 2.他国の看護に触れ、日本の看護について考えることができる。 3.研修先で日本の看護についてプレゼンテーションを行い、情報交換できる。 4.学生間交流を通し、看護に対する考えを共有できる。

《成績評価の方法と基準》

課題・レポート内容で評価する。 60点以上で単位認定となる。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

配布資料
各自参考文献やネット検索で収集する。

《授業外における学習方法》

まずは相手国の状況について十分に学習し、日本の現状と比較し理解を深め、説明できるようにしておくこと。また海外研修では積極的にコミュニケーションをとり、自分を表現し、その地域の文化も含め看護の理解につとめるようにすること。

《履修に当たっての留意点》

海外研修先の文化を尊重した態度で学習する。また、積極的に英語でコミュニケーションをとり多文化の中で多くの学びを得てほしい。最も大事なことは、体調管理であり、出発前からの健康管理を万全にすること。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカにおける健康課題、ヘルスケアシステムについて説明できる。	配布資料 各自の学習ノート	アメリカの文化・健康を取り巻く課題を調べる
		各コマにおける授業予定	アメリカにおける健康課題、ヘルスケアシステムについて		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	参加した授業①の内容をノートにまとめることができる。	配布資料 各自の学習ノート	講義テーマについての事前学習
		各コマにおける授業予定	研修校における授業参加		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	参加した授業②の内容をノートにまとめることができる。	配布資料 各自の学習ノート	講義テーマについての事前学習
		各コマにおける授業予定	研修校における授業参加		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	施設見学で関心を持った点について、質問する事ができる。	配布資料 各自の学習ノート	アメリカの施設に関する事前学習
		各コマにおける授業予定	研修校における施設見学(病院、ナーシングホームなど)		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	学生発表会に参加し、発表内容に対して、意見が言える。	配布資料 各自の学習ノート	研究の発表原稿・PPの確認・修正
		各コマにおける授業予定	学生間交流、相互研究発表		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	積極的にコミュニケーションをとり、交流する事が出来る。	配布資料 各自の学習ノート	日常英会話を復習
		各コマにおける授業予定	学生間交流、文化交流会		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	文化・習慣等を体感し、日本文化との相違をまとめることができる。	配布資料 各自の学習ノート	日常英会話を復習
		各コマにおける授業予定	全研修期間における活動		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	学びを他者にわかりやすいように発表し、他者の発表には意見を発言できる。	配布資料 各自の学習ノート	まとめ
		各コマにおける授業予定	研修まとめ、発表（学びの共有）		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			